

動物との関わりで 共感や思いやり

神奈川県秦野市立南が丘小で



獣医が飼育委員に講習

教員研修で教育効果を語る

継続的で豊かな教育効果を生み出す動物飼育について学ぶ学校飼育委員会講習と教員研修会が4月10日、神奈川県秦野市立南が丘小学校(後藤清志校長、児童数756人)で行われた。2年ぶりに再開したウサギなどの校内動物飼育活動を適切に、継続的に行うため、会では獣医師で全国学校飼育動物研究会顧問の中川美穂子さんなどが講師となり、5、6年生による飼育委員会に、チャボやウサギの鼓動を聞かせたり、正しい抱き方などを体験させたりした。教員には、「動物の世話を通して思いやりや共感力の向上が得られる」などと語った。

ふれあいから飼育の視点を学ぶ。前半は、5、6年生の「ふれあいで飼育する」など、飼育委員30人を対象にした飼育講習会を実施。児童らは、約2年ぶりに再開する校内動物飼育の正しい動物飼育の方法を学ぶ。中川さんは、「ウサギはエサと水を毎日入れ替えてあげて、小屋をきれいに掃除してあげないで、神不安定になってしまいます」と説明し、児童らに定期的な掃除や、心共感、愛着心の変化を見つめた研究調査では、

「ウサギの正しい抱き方を優しく手を入れ、ゆつくりなでてあげて」「ウサギはあまり追い回さず、長く抱っこしすぎないで」などと、各グループに心得やアドバイスを送った。最初は「わいわい動物を抱いていた児童も助言を受け、徐々に動物の温もりを感じながら、落ち着いた抱き方ができるようになり、「あたたい」「フワフワしている」などの声をあげ、動物との心地よい関わりと命の大切さへの実感を深めていくようになった。児童からは「ウサギやチャボのいやがること」は「1日15分くらい抱っこしてあげるといい」と心得を覚え、これからの飼育活動に励ましていた。

学校全体で取り組み十分な振り返りも後半は、同校の全教員30人を集め、教員研修会を行った。専門家から改めて学校における動物飼育の教育効果や意義を学び、教員もウサギやチャボとふれあいが、飼育のポイントなどを通過して動物への関心や愛着などが深まり、細かな部分への観察力も高

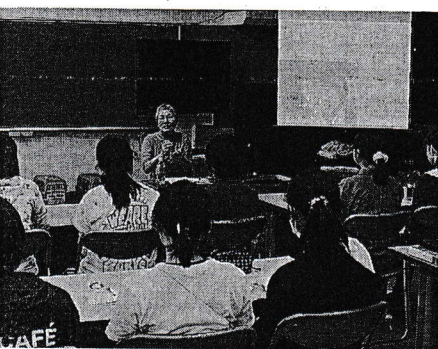
「ウサギの正しい抱き方を優しく手を入れ、ゆつくりなでてあげて」「ウサギはあまり追い回さず、長く抱っこしすぎないで」などと、各グループに心得やアドバイスを送った。最初は「わいわい動物を抱いていた児童も助言を受け、徐々に動物の温もりを感じながら、落ち着いた抱き方ができるようになり、「あたたい」「フワフワしている」などの声をあげ、動物との心地よい関わりと命の大切さへの実感を深めていくようになった。児童からは「ウサギやチャボのいやがること」は「1日15分くらい抱っこしてあげるといい」と心得を覚え、これからの飼育活動に励ましていた。

「ウサギの正しい抱き方を優しく手を入れ、ゆつくりなでてあげて」「ウサギはあまり追い回さず、長く抱っこしすぎないで」などと、各グループに心得やアドバイスを送った。最初は「わいわい動物を抱いていた児童も助言を受け、徐々に動物の温もりを感じながら、落ち着いた抱き方ができるようになり、「あたたい」「フワフワしている」などの声をあげ、動物との心地よい関わりと命の大切さへの実感を深めていくようになった。児童からは「ウサギやチャボのいやがること」は「1日15分くらい抱っこしてあげるといい」と心得を覚え、これからの飼育活動に励ましていた。

「ウサギの正しい抱き方を優しく手を入れ、ゆつくりなでてあげて」「ウサギはあまり追い回さず、長く抱っこしすぎないで」などと、各グループに心得やアドバイスを送った。最初は「わいわい動物を抱いていた児童も助言を受け、徐々に動物の温もりを感じながら、落ち着いた抱き方ができるようになり、「あたたい」「フワフワしている」などの声をあげ、動物との心地よい関わりと命の大切さへの実感を深めていくようになった。児童からは「ウサギやチャボのいやがること」は「1日15分くらい抱っこしてあげるといい」と心得を覚え、これからの飼育活動に励ましていた。

生徒指導 学級経営

まっすぐに、動物への愛着を深め、すすめる「世話にあまり苦勞せず、人との感情交流が図れるチャボやウサギ」が、動物飼育を進め、そのための「床をコンクリートにして掃除をしやす



また「学校全体の教育目標を見据え、飼育活動をきちんと教育課程に組み込む」「飼育担当の教員だけでなく、学校全体で支える仕組み」などの学校ぐるみでの取り組みも重要なポイント。また「動物の死も含め、飼育活動を子どもが振り返りながら考えを深める機会を充実」などといった飼育を教育活動に結びつけるための視点についても注意を促し、教員を励ました。 同校/TEL0463(8)28000